

校内研究だより 第1号

南関第三小学校
令和8年6月10日
研究主任：石田

【研究主題】

相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【学校教育目標】

やさしく・しっかり考え・たくましい
「南関三小っ子」の育成

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

仮説① 書くことにおける基礎基本の定着を図り、単元構想や学習展開の工夫などを行えば、相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成ができるだろう。

6月5日（金）第5校時、石田が5年国語の研究授業を行いました。

○単元名「日常を十七音で 3／4」（光村図書「国語5 銀河」）

① 前時のふりかえり・めあての設定をする。



② 見通しをもつ。



③ 表現の工夫を確認する。教師のエラーモデルを推敲することで、学習課題への取組を確認する。



④ 自分の俳句の表現の技法を選ぶ



⑤ 交流する。



⑥ 学習のまとめ・振り返りを行う。



「わからないから教えて」と友達に助言を求める児童のもとに、よりそう児童。



友達に教えてもらったことを参考にしながらも、自分の納得いく考えに至らず、最後まで悩みながら考え抜く児童。

考える力

協力する力

を育みました。

★共通実践事項

○国語科スタンダード

○交流学习において、根拠をもとに説明し合う

裏面へ

※R 8 年度、「学校化」を目指して取り組んでいきましょう。よろしくお願いします。

授業後の感想の紹介です。

日頃の学習訓練や授業での取り組みが生かされ、メリハリのある学習ができていました。導入部分で時間を費やしてしまいがちですが、事前の準備も効果的で短時間のうちに子供たちが学習課題をつかみました。そして、先生の俳句をもとに活動内容を示したことで一気に意欲が高まったと思います。 (一部 抜粋 牛島教頭)
タブレットの活用方法や振り返りの方法など、ベースとなる方法が示されたことにより、これからの可能性が広がる授業となっていました。子供たちが学びの主体となる授業構成になっていました。 (田川)

◎グループ協議で出た意見

良かった点	・学習規律の徹底。 ・国語のスタート（単元のゴールが明確で児童の意欲をたかめるものとなっていた） ・子供たちが自分の俳句と向き合っていた。 ・分からない児童が「教えて」と言える場作り。 ・交流で自分の俳句を紹介したり、困っていることを尋ねたりしていた。 ・協力して、俳句をよりよくしようとしていた。 ・振り返りの時間の確保。（自分の学習を振り返り、3つの資質能力と関連させていた。）
課題→改善策	・どの句を選ぶか迷っていた児童もいたので、事前に決めさせておくとうよかった。 ・教師のデモンストレーションのときに、児童の活動と同じ流れで行うとうよかった。 ・教師の俳句の推敲を児童に考えさせてみてもよいのでは。 ・表現方法が思いつかない子がいた。→気持ちに合う表現をいくつか準備しておくとうよい。 ・タブレットの画面の統一。学習シートが一つの画面で管理できるようにしておく。 →誰がどこまでできているのかなど、進捗状況がわかるようにしておくのも効果的では。 ・班での発表のときに、友達の俳句の思いが伝わるのかを確認してアドバイスし合う場の設定。

授業者 石田より

3時間扱いの単元を4時間で学習させるても、とても難しかった。事後研で話題にあがった、児童の学習の進捗状況がわかるようにタブレットを活用する方法や、学習の流れのデモンストレーションをタブレットで行うとさらに効果的な学習ができただろうと思った。ただ、子供たちは終始やる気に満ちており、交流時もしっかりと自分の考えを伝え合っていた。何より、学習規律の徹底を指導主事はじめ、先生方に褒めていただいたことが何よりもうれしかった。今後も、子供たちが楽しく学習ができるように、教材研究を楽しみながらできる自分でありたいと思う。
先生方、お世話になりました。ありがとうございました。

教育センター 増田 直樹 指導主事（講師）より

子供が「学びの主体」となる単元デザインにするには、
①指導事項を明確にする。（重点指導事項の確認）
②学習課程の位置づけを見る。（家庭学習と組み合わせるなど）
③前単元と比較し、子供の立場で指導事項の具体を考える。
相手意識を持ち
相手意識と目的意識を入れると分かりやすい。「だれとどんなことをするのか。」
自ら考える 判断→可視化 道具（ツール）ネームプレート、数直線 ずれを可視化
学び合う 思いや感動を伝える工夫 伝わっているかどうか大事 アドバイスの基準
子どもの考えの可視化、子どもの立ち位置の可視化
学び合いのよさを実感→子どもが学び方を評価
自分で明日からの授業につなげていくことが大事である。

